

2022年11月12日  
道山 元

小浜レースに参加してきました。

11月6日、長崎小浜レース参加してきました。このレースは今回で確か、26回目。航程は、温泉で有名な雲仙小浜（おばま）港沖をスタートし、野母崎を經由して、軍艦島直近を航過、長崎サンセットマリーナまでの40マイル。前夜祭前に、長崎雲仙から湧き出る天然かけ流し「小浜温泉」に入浴でき、また、レース当日には世界遺産の軍艦島を目の前で楽しむことができます（余裕があれば）。

今回のレース参加は全部で11艇。往年の山崎造船製のST34「高嶺」や同じくST36「ギャートルズV（オークランド・博多レースに参加した旧「金星」）から、昨今のレース艇であるメルジェス30やOD40他までとバラエティーに富みました。



参加の1週間前、タイミングよく家族総出で船底掃除。船底塗料を塗って、ピカピカに船底を磨き上げました。40年前、私が幼少の頃、両親と1号艇（K21）で船底作業した覚えもあり、何時か、同じ作業を自分の家族で実現しようと願ってきました。実現できたことは、喜びの極みでした。



上架して、皆でフジツボを落とす



父ちゃんが高圧洗浄して、皆で船底塗料を塗って、夫婦で仕上げる



そして 48 時間で完了

レース開催前々日の4日、長崎サンセットマリーナを昼過ぎに出港。野母崎をかわして、長崎半島の反対側（東側）の茂木港へ回航しました。当日の天候は晴れ、北の風平均15ノット。25マイルの航程。午後5時半に入港し、近くの銭湯へ。350円なり。その後、午後6時過ぎに、長崎市内からバスで移動した家族と合流。家内は自宅から冷凍餃子を持参。艇内で鍋を楽しみ、早々と就寝しました。



茂木港フェリーターミナル桟橋にて、アツアツの餃子鍋

翌5日、朝日が眩しい朝7時半に茂木港を出港、東15マイル先の小浜港へ向かいました。出港後、子供らはキャビンで爆睡。午前8時ごろに長男が起きてきて、小浜港まで北風10ノット弱の中、ずっとヘルムしてもらいました。長男は成長が進み、軽風であればオートヘルム並みにステアリングできるようになり、随分と楽ちんになりました。



朝焼けの茂木港と、成長した長男

午前10時過ぎに小浜港へ入港。海底から温泉が湧き出る港内のみならず、相変わらず町中の道路端からも温泉の湯気が上がっています。入港時、レース参加艇が1艇も居なかったことから、本当にレースが開催されるのか不安になりましたが、昼頃になると往年の林賢之輔さん設計の山崎造船製ST34「高嶺」（現在、中米カリブ海をクルージング中の「Zen Again：旧白南風」と同型艇）や同じくST36「ギャートルズV（オークランド・博多レースに参加した旧「金星）」、大村湾から針尾の瀬戸を抜けて80マイル近く回航してきた「チドリ」など、チラホラと参加艇が入港してきました。





温泉の煙たなびく小浜の町に、レース参加艇が集まってきた（港内の水温は 25 度程度）

私は幼少の頃、ST36「ギャートルズV」を建造していた山崎造船の工場で度々遊んでいたこともあり、その建造風景が記憶の彼方に焼き付いていました。キャビンにお邪魔すると、取り付け直前という段階で、山崎造船の工場の片隅に立て掛けられていたキャビンドアのルーバーの造形美など、40年前の鮮明な記憶が戻ります。バウデッキにはメルボルン・大阪レース参加当時に「21番」と大きく黄色で書かれたまま、コンパニオンウェイを降りてすぐの天井には、同レース参加の銘板が誇らしげに掲げられていました。薄暗くともキチンと整理整頓されたデッキとキャビン。ジブのウインチは、現代にない大きなサイズのROM製32番。まさに、往年の外洋クルーザーの風貌。現在は、旧長崎造船工業大学（現長崎総合科学大学）のメンバーに大切にされており、本当に幸せな艇と感じました。



林賢之輔さん設計の ST36 ギャートルズV（旧「金星」）

夕方、前夜祭前に会場である「吉兆（よしちょう）」の地下にある温泉で入浴。雲仙から滔々と湧き出すイオウの温泉に漬かり、冷えた体を温め、ビールを楽しみ、ヨットに帰ってシュラフに包まり、レースの朝を待ちました。



小浜の街並み

レース当日の朝4時、周囲のヨットの皆さんが、私のヨットのデッキを歩く足音で目が覚めました。そして、なんと朝にめっぽう弱い息子らも、朝5時に起きました。5時半、暗い中を各艇、航海灯を点灯させ、出港していきます。レースをお世話する方々も、口々に「航海灯を点灯して、出港してくださいね」とのこと。すなわち、「航海灯を点灯できない艇は、レースに参加できない」という訳です。シーマンシップが問われるとは、なんと素晴らしいレース。

そして、午前6時半。各艇、一斉にスタートします。スタート直後、東の風3ノット程度だったこともあり、ジェネカーを揚げるも、弛んだまま。各艇、朝焼けの中を漂うばかりでした。

しかし、朝焼けが明けて明るくなるにつれ、北側の海面が黒く変色。一気に北風になり、Gustで20ノットを超え、平均で15ノット近くまで吹き上がります。ファミリーで参加する拙艇も北風を一杯受け、一気に加速。スピンを揚げてブローチングする艇や、スピンを諦めてバタフライで走る艇を後方に抑えて、拙艇は時折10ノットを超えるスピードでサーフィング。帆走性能を期待していないこともあり、たまに失礼ながらも「バスタブ」呼ばわりしていた我が艇を見直した瞬間でした。



真剣な父ちゃんに、母ちゃんは惚れ直したらしい・・・

ところが、午前 11 時前、スタートから 20 マイル走り、レース中盤に差し掛かった野母崎沖で風が落ちます。野母崎沖までのフリーのコースから、サンセットマリーナへの上りのコースとなり、加えて Gust で 22 ノットはあった風が、平均 10 ノット以下に。そうなる  
と、メインファーラー&ショートリグの拙艇はズルズルと順位を落とすことに。



野母崎沖から、後続艇に抜かれ続ける

結果、世界遺産の軍艦島を越えることには、ビリから 2 番目に。

そして、午後 4 時にサンセットマリーナ沖に到着。家族総出でハイクアウトしながらフィニッシュのホーンを聞き、レースを終えました。

家内はレース後のコメントで「もっと早い艇がいい、来年も出たい、今週末：11 月 13 日のクラブレースに参加しよう！」と。長男は小学校の絵日記の題材にヨットレースを取り上げ、達成感もあったようです。そしてレースの賞品は次男がクジ引きでゲットした卵焼き用のフライパン。家内がずっと欲しかった調理器具を引き当てた次男は、ご満悦でした。私は今回、家族で初めてのレース参加ということもあり、安全な完走を第一に目指しました。結果は参加 11 艇中、9 位。順位はともかく、準備を含めて家族で真剣に取り組んだレースであり、家族一同、充実した週末となり、本当に良かったと感じています。

最後に、小浜レースは温泉と世界遺産（軍艦島）を楽しめる楽しいお祭りレース。風に恵まれ、海も比較的平穏なので、来年も多くの老若男女のヨット乗りが、そして、できればファミリーが集まることを期待したいと思います。